講義名	（対面）研究演習Ⅰ		
講義コード	12071	授業形態	
担当教員	丸山　亜希子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ２時限		
備考			

ゼミ

学部・学科ゼミ

学部

経済学部

学科

経済学科

演習名

丸山亜希子ゼミナール（労働経済学）

概要説明

　労働経済学は労働・雇用問題、結婚、離婚、出産の意思決定など、家族問題やそれにまつわる政策・制度を扱います。最近のマスコミの記事等でいえば、雇用問題、女性労働（ワークライフバランス）、婚活（結婚活動）、少子化問題や、子供の教育費なども労働経済学で扱うトピックスになります。
　このゼミでは、経済学的視点・思考に重きを置いて労働経済学の諸トピックスを、皆で本を読みながら考えていきます。

このゼミの目標
・経済学の考え方を身に付け、労働経済学のトピックスについて知識を深める。
・文献を丁寧に読むことを通じて、論理的思考の習得を目指す。
・プレゼンテーション能力を磨く。
・時事問題を日ごろからフォローする癖をつける。

研究演習Ⅰ
　2年次には、経済学の基礎理論を学び、経済学的な思考法を身につけることを目標とします。このため、「経済学入門」または「ミクロ経済学」の単位を取得済みであるのを前提に進めます。これらの科目を取得していない者は自習により追いつく必要があります。

　ゼミでは毎回、プレゼンテーションのトレーニングのため、テキストに沿って2人にテキスト内容の要約を全員の前で発表してもらいます（1人持ち時間45分（質疑応答含む））。教員になったつもりで、他の学生さんにわかりやすく内容を解説して下さい。このため、発表が当たっている日までの宿題として、テキストの要約作業とわかりやすいプレゼン資料の作成が課されます。
※　特にこのゼミでは、論理の積み重ねを重視しているため、テキスト内容をしっかり理解せずに発表した場合には、準備不足とみなし、減点とともに次週にやり直しをしてもらいます。

　また、発表者以外の人も、しなければならない事があります。
　ゼミではみなさんに発言し、ディスカッション（議論）してもらうことも重視しているため、発表者でない人も必ずテキストの予習をした上で、各回１人１回の発言を義務付けています（発言しない場合、減点あり）。
　さらに議論を深めるためにも、日頃から各自で新聞や本を読むなど、情報のインプットが求められます。
　期末には期末レポートを提出してもらいます。

研究演習Ⅱ
　3年次の前期では、2年次に引き続き個別発表によるテキストの輪読・課題を行い、ゼミの時間以外に各自の卒業論文のテーマを自分で見つけてもらいます。教員からテーマを与えることはありませんので（経済学分野の慣例です）、日頃から新聞などを読み、問題意識を持つようにして、テーマを決めて下さい。

　3年次後期からは、それまでに決めてもらった卒論テーマについて、ゼミの時間以外に各自、2年次、3年次で学んだ経済学的思考法を応用して、経済学的な視点に基づいた分析を行ってもらい、ゼミの時間にその経過報告を発表してもらう形式をとります。
　また、前期・後期、それぞれ、期末には期末レポートが課されます。

卒業研究
　4年次は、3年次後期と同様、引き続き卒論のテーマについての分析発表と、論文執筆を行ってもらいます。
（4年次「卒業研究」では、卒論を提出しなければ単位付与しません。）

学位

博士（経済学）

教員よりの要望

以下の事を求めます。

（１）学習意欲：　知識を身につけ、アウトプットができるようになるまで比較的時間のかかる分野であるため、「労働経済学をぜひ学びたい」という、学習に意欲的な学生を求めます。

（２）課題に丁寧に取り組む：　上記のように、ゼミでの発表回数は多いですが、その都度、予習や宿題（テキスト要約や発表準備）をしっかり行うことが求められます。

（３）精読・読解力・理解力：　経済学は論理を積み重ねていく学問であり、特にこのゼミではそこに重点を置いています。したがって、テキストや論文の精読が必須になります。文献をいい加減に読み進むと、途中で必ずつまづき、前に進めなくなります。このため、ゼミの発表準備など、ゼミの時間外にも、各自、本に書いてある内容を一文一文精査し、文章の全体構造を把握し、自分の頭の中で論理的に積み重ね、理解する作業が求められます。

（４）情報収集：　日ごろから新聞などを読み、時事問題なども常にフォローする必要もあります。

教員英字氏名

Maruyama Akiko

研究室

研究棟Ⅱ　2713研究室

最終学歴

関西学院大学大学院　経済学研究科　博士課程後期課程

主な研究活動・社会活動・研究業績

主な研究テーマ
長期のパートナー探し行動（結婚相手探し行動、職探し行動）、少子化

主要業績
* "Influence of over-and underconfidence on a marriage market," Japanese Economic Review, Vol. 64(2), pp. 276–294, 2013.

* "Variety expansion and fertility rates," (with Kazuhiro Yamamoto), Journal of Population Economics, Vol. 23(1), pages 57-71, 2010.

* "On the coexistence of reciprocity and materialism," Economics Bulletin, vol. 3(59), pages 1-9, 2007.

主な卒業論文のタイトル

趣味・特技

料理のコツを学ぶのが好きで、料理番組や料理本をよく見ています。ただ、実際に料理をするのは好きではないので、あまりしません。

所属

所属学会

日本経済学会、Econometric Society

専門分野

応用ミクロ経済学、労働経済学、人口経済学

選考方法

（1）研究演習Ⅰの申込みの場合

　個別ガイダンスでの会話内容と、提出書類の内容（志望動機、どのようなテーマを勉強したいのか、日ごろの活動状況など）により選考します。熱意を持って書類を記入してください。
また、ゼミの申込み時、演習申込書に成績表（コピー可）を必ず添付すること。

（2）研究演習Ⅱ で他のゼミから当ゼミへ移籍を希望する場合

担当科目

専門基礎科目、経済学入門、労働経済論、労働経済学、地域経済論、特別セミナーII、特別クラスII、研究演習I、研究演習II

備考

評価方法

　口頭発表の内容、提出課題、ゼミへの貢献度、授業態度によって総合的に評価します。

　また、正当な理由のない無断欠席を３回した場合にはゼミへの参加資格を失います。
（なお、正当な理由のある・なしに関わらず、合計5回欠席した場合もゼミへの参加資格を失います。）
正当な理由のない無断遅刻も、回数によってゼミへの参加資格を失うことがあります。
授業態度が酷い場合にも、ゼミのへの参加資格を失うことがあります。

実務経験の有無及び活用